

名誉会員

川崎孝人博士のご逝去を悼む

本学会名誉会員 株式会社東京ソイルリサーチ顧問 川崎孝人博士には悪性リンパ腫のため、2003年2月28日12時40分、築地の国立がんセンター中央病院にてご逝去されました。享年73歳でした。

川崎さんは、島根県江津市の石州瓦本舗の家柄の次男として、昭和4年6月27日、父君が工場を経営されていた山口市でお生まれになり、浜田中学卒業の後、日本大学に通われながら、親戚の大崎頼彦博士の下で、昭和27年より建設省建築研究所の助手として関東ロームの性状の研究など地盤工学の研究に従事されました。昭和32年、日本大学を卒業後、株式会社竹中工務店に入社、同社技術研究所地下構造部門に配属され、同40年主任研究員、同45年主席研究員、同51年所長補佐、同56年より株式会社竹中土木取締役を兼務、同62年研究所次長を経て、平成2年、株式会社竹中工務店を定年退社され、引き続き株式会社東京ソイルリサーチに常務取締役として入社、平成3年専務取締役、同7年常任顧問、同9年より、同社顧問を歴任されました。

土質工学会（現在の地盤工学会）では、昭和43～44年度参与、昭和56～57年度理事、昭和61～62年度監事を勤められ、昭和42年には、「大口径グイの載荷試験方法と試験結果検討法の開発」で土質工学会技術賞を受賞、平成元年には、土質工学会功労賞を受賞され、平成12年には地盤工学会名誉会員に推挙されました。

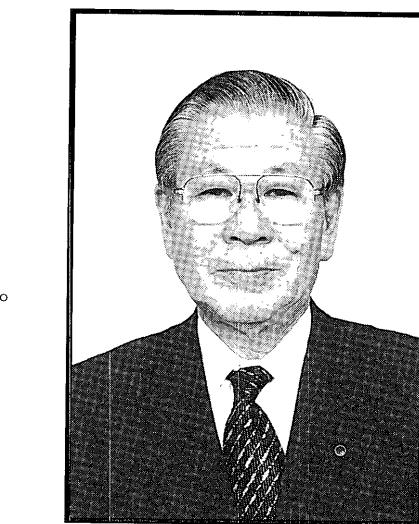
川崎さんは、地盤工学においては実プロジェクトに飛び込み、測定と体験を通して実現象を解明することが何よりも大切と、土質試験・調査に、載荷試験に、根切りの現場に、身を挺して活動されました。その一端は前述の「大口径グイの載荷試験方法と試験結果検討法の開発」としてまとめられ、土質工学会の技術賞に輝きました。また、昭和37年より土質工学会が鉄鋼6社からの委託で実施した鋼グイ研究委員会では、第2分科会（クイに作用する負の摩擦力に関する委員会）、ならびに第6分科会（鋼グイの適用性に関する委員会）の委員として縦横の活躍をされ多大な貢献をされました。さらに、軟弱地盤の改良は、港湾工事、大規模掘削工事に不可欠と、セメントスラリーを混合する改良工法の開発研究に熱心に取り組まれ、各所の港湾工事、陸上では大規模な開削工事に採用され、関西国際空港の二期工事にも一部採用されるなど、実用化に貢献されました。その成果は、「セメントスラリーを用いた深層混合処理工法に関する実験的研究」としてまとめられ、日本大学より工学博士を授与されるものとなりました。

そのほか、多方面にわたる研究、コンサルティング活動は枚挙にいとまがありませんが、建築学会、日本建築センターなどにおいても多大な貢献をされました。

警防団長を引き受けたおられた父君が、台風の猛威の最中、人命を救助して自らは命を落されたという遺伝でもありますか、その性、豪放磊落、人のために親身になって労をおしまない、そのお人柄は、接するすべての人からの信望をあつめ、誠実、細心の心配りは、業務はもとより、個人の交際においても厚い信頼を得ておられました。

多くの地盤工学のプロジェクトに貢献され、多くの人々から愛され慕われた川崎さん、今少し長く生きてご活躍いただきたかったと、しみじみ思う次第です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



(遠藤正明 地盤工学会名誉会員)
社団法人 地盤工学会